

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 3月 30日

事業所名 ラフカkids

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			指導訓練室は、都の基準の約1.5倍の広さです。	
	②	職員の配置数は適切である	○			有資格者を1日3名以上配置し、日々4～6名で支援を行っています。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			全室段差のないフラットな状態で、トイレは車いす対応です。	
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			常勤職員及び有資格の職員を中心に毎日行い、定期的に会議や情報共有の機会を設けています。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者等の意向を全職員に周知しています。また、職員が集まって協議し、改善を図りました。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○			
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修への参加も内部研修の実施も積極的に行っています。	
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			契約までに計9枚のプロフィールシートを保護者へご記入いただき、本人ともお会いしてアセスメントを行っています。その中から児童や保護者のニーズや課題を抽出して、計画案を作成しています。利用開始後も保護者や本人のニーズや課題を共有しています。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各活動に主担当者を設け、担当者が企画立案したプログラム内容について、職員間で協議を行っています。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			日々、創作活動や運動、誕生日会などの様々な活動プログラムを行っています。隔週で活動の曜日を変える等して、週1日利用の児童にも幅広く活動に参加いただけるように工夫しています。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日や休日それぞれの状況を想定し、子どもたちの成長に合わせた目標を会議の場で話し合い、設定しています。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	○				
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			シフト勤務のため、終礼で確認したことを当日勤務がなかった職員と翌日の朝礼や打合せの時間等に、日誌等で共有するようにしています。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○			機会があればふさわしい者が出席するように調整する予定です。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○				
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在は、医療的ケアが必要な児童の受け入れがありません。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		そのようなケースがあれば行います。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○	当法人は、子どもを障害の有無で区切るという考え方をしておりません。戸外活動等の何気ない日々を通して、地域の大人や子どもたちと交流したいと考えています。	
	㉗	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	○				
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			児童の様子は、サービス提供記録を毎回お送りすることで、療育内容や課題を詳細にお伝えしています。また、保護者の方からは連絡帳やメール、電話等で日々の様子や課題についてご相談いただき、個別で支援を行っています。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			個別でご相談があった場合に対応しています。また、web媒体「note」にて発達支援などに関する情報発信を行っています。	
	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談の他、適宜電話やメール等での助言を行っております。	
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		様々なご意見の保護者の方がいらっしゃるため、開催については検討をしていきます。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			主にインスタグラムで活動の様子を発信しています。また、不定期ですが、それぞれの児童へ個別で活動の様子を写真でお伝えしています。	
	③5	個人情報に十分注意している	○				
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
非常時等の対応	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			
	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各マニュアルは保護者等へ配布し、事業所内に閲覧用書類としても整備しています。	
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			全ての曜日で避難訓練を行い、全児童が参加できるように配慮しています。	
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示書があるという事例がありません。	
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。